

「次世代型トップリーグ」設立に関する諸問題の検討

A study on various issues of foundation of new basketball league

1K07B031-1 江口 順紀

指導教員 主査 作野 誠一 先生 副査 倉石 平 先生

【緒言】

現在、国内にはJBL、bjリーグという2つのバスケットボールリーグが存在している。協会傘下のJBLと「プロ」に対する考え方の相違から2005年に誕生したbjリーグはこれまで歩み寄ることはなかった。しかし2010年3月20日の日本バスケットボール協会(JBA)の理事会および評議委員会でbjリーグの承認、チーム、選手の協会への加盟・登録が承認され、同年4月21日には「次世代型トップリーグ」の2013年度設立に向けた覚書に調印がなされた。公の場で初めて2つのリーグが将来的にリーグ統合を目指すことで合意した。

そこで本研究では「次世代型トップリーグ」設立にあたり現行リーグからの移行が求められるJBL、bjリーグという2つの団体を対象とし、それぞれいかなる問題点、課題を持っているかを調査し、「次世代型トップリーグ」が双方納得した形のリーグとなるための条件を模索することを目的とした。

【研究方法】

JBL、bjリーグの設立経緯や運営方法の違いから現在どのような活動をしており、「次世代型トップリーグ」設立に関してどのような課題を持ち運営しているのか差異を明らかにするため、資料収集及び両リーグ関係者への面接調査を行った。具体的にはJBL事務局広報部、bjリーグビジネスオペレーション部兼アカデミー事業ディレクターに対して「地域密着」「施設等行政との連携」「参入チーム」「サラリーキャップ」「プロリーグ設立」「企業チーム」「プロ化」という現在のリーグ運営に関してのキーワードを設定し、これらについてたずねるとともに、その内容を基に「次世代型トップリーグ設立」に関する考察を行った。

【結果】

(1) 地域密着

bjリーグ側の見解ではJBL参加の企業チームは大企業であり、全国的な視野から特定の地域への密着には限界があると述べている。仮に現在のbjリーグのチームが根付きつつある地域に企業チームがホームタウンを構えるのであれば困難になると語っている。

(2) 施設等行政との連携

両リーグ共に練習・試合の際に利用する公共施設の確保に苦労していることがわかった。というのも公共施設は地域の住民の税金で建てられたことから、協会傘下のJBLであっても優先的に利用できない。またbjリーグがプロリーグであるので借りた際には施設使用料が通常よりも高いことがわかった。

(3) 参入チーム、サラリーキャップ

両リーグ共にプロチームとしての参入申請があることがわかった。またチームの運営資金としてbjリーグは1億5000万円で可能であることが明らかになった。bjリーグのサラリーキャップとして設定されている7,200万円は今後チケット収入が安定してきた際、引き上げることも検討されている。

(4) プロリーグ設立

JBLはJBA傘下であることから新リーグ設立の際は柔軟に対応していくという見解をしている。bjリーグも「日本のバスケット界が強くなれば」と語り、もともと1つになればという思いがあることがわかった。また設立に関して取り組みをオープンにし、バスケットボールをやっていない人からも賛同できるリーグであることが大切と語っている。

(5) 企業チーム

JBL加入の企業チームはチケット収入等を運営費として計上しておらず、損失赤字は企業が負担している状況から、依然企業にチーム運営の主導権があることが明らかになった。またJリーグを例に、スポンサーとして資金提供するよりは「企業スポーツで良い」という考え方が根強くプロ化に踏み出せない要因となっている。

(6) プロ化

JBLへの調査から1990年代には構想が練られ、その案はJリーグ設立の際に参考にされたことがわかった。また2005年のbjリーグ誕生、2007年のプロ化検討委員会の設立等バスケットボールを取り巻く環境や背景が大きく変わってきたことからバスケットボール界の「プロ化」の意識も高まっているという。bjリーグ側は興行として成り立たせることも重要と考えていることが明らかになった。

【結論と展望】

「次世代型トップリーグ」設立に向け主に①次世代型トップリーグがプロ化を前提としたオープンリーグを構想している上でJBL参加の企業スポーツの分社化が求められている点、②bjリーグは株式会社としてリーグが運営されている点、③サラリーキャップ制度の相違などがこれから調整すべき大きな課題である。また設立に関して可能な限りオープンに取り組むことも、バスケットボールという競技が支持される為に大切である。両リーグ共にプロチームとしての参入申請が相次いでいること、日本代表選手である石崎選手のbjリーグへの移籍は「次世代型トップリーグ」設立に向けて後押しになると考えられる。